

園のおたより



第 4 号

令和 8 年 7 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

夏休みの過ごし方

園長 大向 隆三

梅雨があけて夏の日差しを感じる季節となりました。いよいよこどもたちが楽しみにしている夏休みを迎えます。夏休みは、幼稚園ではできないさまざまな経験ができる特別な期間です。その一つ一つが、子どもたちの心を豊かに育ててくれることでしょう。夏休みの過ごし方に正解があるわけではないのですが、私のオススを4つ紹介します。

- ① 虫を育ててみる ～ こどもたちは虫が大好きです。園ではダンゴムシやてんとう虫が人気ですが、夏休みはそれ以外の、例えばカブトムシやクワガタを育ててみるのはどうでしょう？その虫が食べるもの、食べ方、動く時間帯や足の動かし方などを観察すると、たくさん発見が出てきます。私も小学生の時は毎年夏休みにクワガタを飼育していました。今も私の大切な思い出です。虫が苦手なら、「花」を育てるのもいいですね。
- ② 空をみる ～ わざわざ望遠鏡を買う必要はありません。自宅の窓または玄関から空を見上げてください。昼間は暑いので、夜に一番よく見える「月」が良いでしょう。日ごとに変わる月の形、位置、月と一緒に見えている星などにこどもが興味を持ってくれたら、親子でプラネタリウムを見に行ってははどうでしょう。近くで言えば駒場の「青少年宇宙科学館」がありますね。初めて見る満天の星空に感動すること請け合いです。
- ③ いろいろな（世代の）人の話を聞く ～ お盆の時期には、おじいちゃんやおばあちゃん、親戚の方々と会う機会もあるでしょう。世代の異なる人々との交流は、こどもたちにとって大変貴重な学びの場です。昔の遊びを教えてもらったり、仕事や暮らしの話を聞いたりする中で、自分の家庭だけでは出会えないさまざまな価値観や生き方の知恵に触れることができます。人とのつながりの温かさを感じる経験は、こどもたちの心に長く残ることでしょう。
- ④ 好きなことを思いのままにやってみる ～ 夏休みは時間をかけて自分の好きなことに取り組める期間です。思い切り体を動かしたり、絵を描いたり、ものを作ったり、本を読んだり、こどもによって興味や関心はさまざまです。一点集中でも手当たり次第でも、好きなことにじっくり向き合う時間は、意欲や集中力、自信を育てる大切な機会になります。

ただし、何より大切なのは安全で健康に夏休みを過ごすことです。事故には十分気を付けてあげてください。また、熱中症をはじめとする夏の病気の予防にもご配慮ください。規則正しい生活を続けながら、元気に毎日を過ごしてもらいたいと思います。ご家庭での温かい見守りのもと、こどもたち一人ひとりにとって実り多く、思い出深い夏休みとなることを願います。9月の始業式で元気なこどもたちとの再会を楽しみにしております。

鼻からの記憶

副園長 小谷 宜路

毎年7月は、遊戯室いっぱいの笹の香りで始まります。今年も、いろいろな願い事と一緒に、この季節を感じられる香りを楽しむことができました。7月7日のこども会では、星形のどら焼きを用意しました。笹の香りの下で、餡の甘い匂いもたっぷり感じるひとときになりました。

この1学期、3組からは、いろいろな美味しい香りや匂いが届きました。こどもたちが心を込めて育てたカブを刻んだ香り、自然観察園でもいだ梅を漬けてできあがったシロップ（ジャム）の甘酸っぱい匂い、素朴な材料で丁寧に焼き上げたクッキーの香ばしさなど、鼻を刺激する素敵なものがありました。

今年度は、文部科学省からの委託研究に取り組んでいる関係で、例年以上に、他の園の先生方と交流する機会をもつことができます。先日は、昔どこかで嗅いだ花の匂いを保育中に思い出すことがある、といったことも話題になりました。

様々な技術が進歩していくことで、目や耳から得る情報は、人の体とは別の方法（撮影、録音、録画など）で記録したり、遠くの人と共有したりすることがしやすくなっています。一方で、香りやにおい（匂い、臭い）といった鼻からの記憶は、別の形で留めたり届けたりすることが難しく、それぞれの人の身体に刻まれることで残っていくように思います。こどもたちの鼻からの記憶も、きっとどこかに残っていくものだろうと感じています。

さて、鼻の記憶に関して、「鼻が利く」という言い表し方もあります。美味しい物の香りや匂いを見つける嗅覚についてもそうですが、何か楽しいことや面白いことを見つけるのに長けている人を表していることもあります。1学期の間、2組（の遊び）には、たくさんの「忍者」たちが現れていました。「どこに行った？」「ooだから、あっちにいるはず」など、それぞれの「鼻を利かせて」忍者になりきっての遊びを楽しんでいました。その時のふむふむといった表情は、見事に「鼻を利かせている」様子でした。香りや匂いは、実体が無い分、こどもたちの直感やその時の雰囲気といったものと合わさって、感じ取られていくのかも知れません。

「風、薫る」というように、嗅覚で感じ取る「香り」だけでなく、全身で感じ取る「薫り」と書き分けてきた中にも、鼻の記憶がもつ意味がありそうです。今年も暑い夏休みに入りますが、様々な香りや匂い（すいか？蚊取り線香？花火？夏野菜？）と出会ったり、面白いことに鼻を利かせたりしながら、素敵な鼻からの記憶として、それぞれの人の中に刻まれる夏になることを願っています。





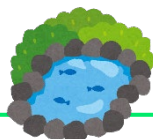
1 くみ

「見立ての豊かさ」

うだるような暑さが続いたこの 7 月、砂場の木陰では水を使った遊びが大変心地よく、素足になって水を流したり、砂と水が合わさる感触を楽しんだりしました。たくさんの水を使っているうちに、あたりに水が溜まってきて、「湖だ」「海だよ」など、自分が感じたことや見立てたことを言葉にする人が出てきました。さらに、砂場で使っている遊具の一つである蒲鉾板をその水の上に浮かべてみると、水の流れによって動き始めました。それを見て、「船みたい」「魚だよ」とイメージが広がっていきました。バーベキューなどで使う焼き網は、魚をすくう網になることもあれば、釣り上げた魚を焼く場所になったりもしました。気付けばそこに広がっていたのは、大海原と元気に泳ぎ回る魚たちの世界でした。

場所を変えて室内でも同じように世界は広がっており、大きな積み木は様々に遊びの中で変化します。ついこの間まではオオカミと七匹の子ヤギに登場する家でしたが、最近では、カスタネットや鈴を奏でるステージになっています。「こんなふうに見える」と一度何かに見立てれば、それほどたくさんの物に囲まれていなくとも無限大に世界が広がります。幼稚園にはこうした様々に見立てることのできる遊具が必要な分だけある中で、こどもたちはイメージ豊かに遊んでいます。

数値で測れる物質的な豊かさは追及していけば際限がありません。便利なものや、精巧に作られた既製品が多い中ではそちらにつ目が行きがちになってしまいます。そんな今の世の中だからこそこどもたちの見立ての豊かさに学ぶことは多いと感じます。2 学期も引き続き、こどもたちの豊かなイメージで楽しく遊ぶことのできる環境を整えていきたいと思っています。





2 くみ

「予想外の面白さ」



ようやく夏らしい暑さを感じるようになり、プールでの遊びも水の心地よさを感じながら入ることができました。大きなプールに入れることに喜ぶ一方で、入る前は暑さを感じる気温でも、いざ水の中に入ってみると思っていたよりも水が冷たいことに驚く姿が多くありました。少しずつ体が水に慣れてくると、肩まで浸かってワニになったり、お腹を浮かせてラッコになったりしながら、水の中で浮いたり、沈んだりする体の動きを面白がり、全身で水に触れる心地よさを感じました。

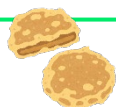
好きな遊びの中でも水を使うことを楽しむ姿がありました。砂場では、「山から水が流れるようにしよう」とシャベルで山に道を掘って川づくりが始まりました。砂に水を少しずつ垂らすと砂と水が混ざり合ってコンクリートのように硬くなることに気付きます。「こうすると硬くなるんだよ」と何度も道に水を垂らし、水を流しても道が壊れないように硬めながら掘っていきます。じっくりと作り進める姿に引き寄せられるように友達が加わり、手分けして道を繋げ、いよいよ水を流してみることにになりました。ところが、砂に水がしみ込んでしまい、思ったように流れません。そこで、以前使った牛乳パックの樋があることを思い出し、繋げてみることにしました。樋を繋げると水はしみ込まなくなりましたが、今度は繋ぎ目から水が漏れてしまいます。そんなことが起こっても「おもしろだ」となんだか嬉しそうにしながら繰り返し水を流し、少しずつ道が繋がっていくことを楽しんでいました。

思いもよらないことが何度も起こりましたが、その時々には自分たちの目の前で巻き起こることをその場に居る人と一緒に面白がっていました。“水を流すための道を作る”という最初の目的からは逸れたように見えることの中に、面白さや新しい気づきがたくさん隠れており、予想外のことが起こるからこそ遊びがより面白いものになっているようでした。水や泥など、自然に触れて遊ぶ中では自分が予想していないことが起こったり、思い通りに作れなかったりすることが多くあります。そのうまくいかなさの中にある面白さの醍醐味を大切に、一見すると、回り道に見えるようなことも子どもたちと一緒に面白がっていきたいと思います



3くみ

「うれしいの循環」



ある朝のこと、畑のアズキに黄色く色づいた花に気づいた人がありました。「あ、花が咲いた…」と呟くと、その声を聴いた人も畑に目を向けて喜びました。そして保育室にいる友達に「おーいみんな!アズキに花が咲いたよ」というお知らせをしました。声が届くと、どれどれと駆け寄って花を見つける人もありました。つやつやの質感や小さくて可愛い花の形の素敵な花を見て嬉しそうでした。「わたし」の嬉しいことを「みんな」の嬉しいことにしていくこどもたちの姿を、何よりも嬉しく思いました。「わたし」のことで一杯だった4月からのことを振り返ると、感慨深いものがあります。

1学期もたくさん遊びました。海賊ごっこやキャンピングカーごっこ、ままごとなどのごっこ遊びでは、本物らしく作ったり、必要な物を丁寧に作ったりして形にしていきながら、なりきって遊ぶ面白さを味わいました。遊ぶ中で「かしてよ」「今、使ってるじゃん。待っててよ」

「それってぼくのがきらいってこと?」「そんなわけないよ。少し待ってって言うてるだけ」というやりとりが聴こえてきました。お互いの素直な思いや疑問を確かめ合って、好きという思いや心のつながりが強くなることもあったようです。言葉でなくても静かな遊びの中で、相手のことをよく感じて心を通わせる姿もありました。

梅シロップがもうすぐ美味しく飲めるようになりそうです。2学期にはシロップを美味しくしていただく予定です。先日しわしわになった梅をジャムにしました。これをどのようにして食べようかとみんなで考えていました。「クッキーの上にジャムを乗せようよ。それは手作りじゃなきゃね」と「わたし」のひらめいたアイディアを教えてくれました。それは素敵ということで翌日にクッキー名人たちが焼いてくれました。梅の酸味と甘みが、クッキーの優しい味によく合って、美味しくいただきました。すると「みんな」から「ナイスアイディアだったね!ありがとう」という言葉や、ありがとうの気持ちが返ってきました。嬉しそうな表情が印象的です。

こうして「わたし」の面白いことが「みんな」に広がったり、また「わたし」に返ってきたりする中で、さらに嬉しさが何倍にもなって循環していくような3組のこどもたちの暮らしがありました。